

川文字資料研究

主な研究活動

(2007年1月～3月実施予定分含む)

研究推進会議

- 第12回 2月7日・2007年度研究計画・予算、COE終了後の事業継承、発展計画について 他
第13回 3月7日・2007年度COE研究員(PD)の選考、共同研究員人事について 他

全体会議

- 第6回 2月16日・2003年度採択拠点に対するフォローアップ、2007年度組織について 他

研究会

全体

- 第6回 2月16日・佐野 賢治「インターネットエコミュージアムの可能性」

班(課題)

* 課題名の表記は略称です

- 1月16日・1班「『東アジア生活絵引』編纂」 研究会
1月20日・1班「『近世・近代生活絵引』編纂」 研究会
1月29日・5班「実験展示」 公開研究会
北村 彰(日展博学支援室室長)「展示の現在」
2月2日・1班「『東アジア生活絵引』編纂」 研究会
2月4日・1班「『近世・近代生活絵引』編纂」 研究会
2月24日・1班「『近世・近代生活絵引』編纂」 研究会
2月26日・1班「『東アジア生活絵引』編纂」 研究会
3月12日・5班「実験展示」 公開研究会 「学芸員の専門性をめぐって」
第1回「今後の学芸員養成と博物館学の方向性」
瀧端 真理子(追手門学院大学助教授)/井上 敏(桃山学院大学助教授)
3月16日・6班「理論総括研究」 研究会
3月26日・5班「実験展示」 公開研究会 「学芸員の専門性をめぐって」
第2回「今後の博物館活動と博物館学の方向性」
犬塚 康博(愛知文教大学国際文化学部非常勤講師)/金子 淳(パルテノン多摩学芸員)
竹内 有里(長崎歴史文化博物館研究員)



現地調査

中村 ひろ子	神奈川県小田原市(1月24日)
神奈川県立生命の星・地球博物館において実験展示にかかわる「バリアフリー研修会」(日本博物館協会主催)への参加	
山口 建治	京都府京都市・兵庫県神戸市(2月1日～4日)
神戸女子大学古典芸能研究センター・吉田神社・長田神社などにおける鬼追行司と被いの技法の現地調査	
中村 ひろ子	東京都墨田区(2月27日)
江戸東京博物館において実験展示にかかわるシンポジウム「誰にもやさしい博物館づくり」への参加	



山口 建治	福井県小浜市（3月2日～3日）
神宮寺においてお水送り行司の調査	
大里 浩秋、富井 正憲	中国 天津市・青島市（3月10日～18日）
天津南開大学および天津旧日本租界、青島旧日本人居住区における旧日本租界に関する現地調査	
金 貞我	福岡県太宰府市（3月13日～14日）
九州国立博物館において韓国編生活絵引関連資料調査	
フレデリック・ルシーニュ（RA）	福島県南会津郡（3月22日～25日）
データベース構築のための民具カードスキャナ取込作業、および現地調査	
三鬼 清一郎	山形県米沢市・秋田県秋田市他（3月23日～28日）
上杉博物館・秋田県立図書館他において文献資料（地図・絵図を含む）の調査研究	



原信田實さんの笑顔にもう会えない

訃報

北原 糸子

原信田さんが1月30日癌のため闘病1年も満たずに亡くなってしまった。神奈川大学21世紀COEプログラムが始まると、最初の第3班「環境と景観の資料化と体系化」の共同研究員として、第1回全体研究会の研究発表以来、第1回国際シンポジウム、プレシンポジウムなどにもお付き合いいただいた。短い間ではあったが、わたしとは浅からざる付き合いとなった。COEで一緒に追究した「名所江戸百景」を安政江戸地震との関係から読み解くという課題を発展させて、この春には新書にまとめて出版する計画であった。この仕事の校正を終えずに逝ってしまわれた。50代の終りを迎えたばかりであったから、まだ「若すぎる」死である。残念というか、本人が一番悔しいだろうと思う。

原信田さんにはじめてお会いしたのは、2003年NHKハイビジョンで歌川広重の「東海道五十三次」と「名所江戸百景」を取り上げた2時間番組の作成現場からであった。鯉絵ならいざ知らず、正統派美術史の領域で論じられてきた広重の錦絵を江戸地震との関係で論じた新しい見方をする人が現れたというので、番組を作るという話であった。番組での話しは、「へえー、こんなことを考えている人がいるのだ」とは思ったが、論点には思い付きの域を出ないところがあって論証不十分だという感触を持ったことは事実だ。

しかし、このCOEの課題が「人類文化における非文字資料の体系化」だと気づき、錦絵はまさしく「非文字」だから、災害による環境、景観の変化という問題に絡めても、十分展開できる要素をもっていると考え、2003年の初年度を原信田さんとの共同研究で出発することにした。現在の東京に「名所江戸百景」の痕跡を探すべく、タクシーで可能な限り現地調査するなどのこともした。車の減る日曜日を狙って夏の暑い一日、東京の下町を巡った。彼は車を降りるが早いか、待ちきれないように走っていくのである。その姿は嬉々として、まるで小学生か中学生のようで、いつまでも忘れられない。

また、COEで購入していただいた東京伝統工芸版画協同組合が作成した復刻版『名所江戸百景』で常民参考室を会場に、金子隆一氏（共同研究員・東京都写真美術館専門調査員）に展覧会を構成していただいた。原信田さんのミュージアム・トークの効果もあって、多数の一般参加者の好評を得た。時に「オタク」の顔も覗かせ、「それは言い過ぎだよ」とストップをかけることも稀ではなかったが、なにものにも捉われずに、自分の考えを話す原信田さんは実に楽しそうだった。

彼の仕事の一部は、地震工学の中村操さんの協力を得て、『「名所江戸百景」と江戸地震』データベースとしてCOEホームページにアップされた（裏表紙参照）。また、4月にはカラーをふんだんに使った原信田さんの遺著『謎解き「名所江戸百景」』（集英社新書）が出版される予定である。ここで、わたしたちは再び原信田ワールドに触れることができるはずだが、あの笑顔にはもう会うことはできないと思うといいような寂しさがこみ上げる。